

令和3年度 上田市立清明小学校 自己評価シート(総合報告)

学校教育目標		めざす子どもの姿(中期的目標)		総合評価							
「清く明るく 豊かな心で 進んで学ぶ 子どもの 育成」 ・心も体もたくましい 子ども ・自分や友だちを大切に できる子ども ・自ら学ぶ子ども		①自主:豊かなかわりやさまざまな体験を通して、自分で気づき、よく考えて自らたくましく行動できる子ども ②豊かさ:お互いに認め合う中で自分に自信を持ち、友とのかかわり合いを大切に、共に学習や生活を楽しむことができる子ども ③学び:自ら見つけた課題を、友と考えをつなぎからめ合いながら追究し、学びの楽しさや高まりを実感できる子ども		①総合的な学習の時間や生活科の時間に多様な体験の場を設定することを通して、子どもが様々なことに気づき、楽しい気持ちで活動を終える姿や自ら学びを深めようとしている姿が随所に見られました。 ②すべての教育活動に人権教育を据え、友とのかかわり合いを大切に授業や集団活動を仕組む中で、友達の良いところを認め合う姿や児童会で継承されている「なかよし宣言」の実践に向けて、自ら進んで暗唱に取り組む姿が多く見られました。 ③子どもが自ら計画を立てて学習を進めているよう事前準備に力を注ぐ中で、主体的に問題解決に向かう姿が多く見られました。今後も学校教育目標や目指す子ども像を念頭におき、自ら目的意識をもって学びに向かっていけるように努めていきます。							
		今年度の重点目標		成果と課題		A	B	C	D	改善策・向上策	
		1	一人ひとりの個性を生かし、多様性を包み込む学級・学校づくり (自主・豊かさ)	友達の良さや個性を認めようとする子どもが増えているように思います。さらに全校体制で多様性を認め合う活動を仕組んでいきます。						教師が子どもを肯定的に見る力を高めながら、さらに子どもが互いを理解し、認め合える場づくりを工夫していきます。	
2	「学びの主体者」としての子どもを育てる学びの場づくり (学び)	自ら進んで学びに向かい、友達と考えを伝え合い、共有し合う姿が多く見られました。さらに学びの手応えにつながる活動を目指します。	○					子どもが主体的に学べるような場をさらに工夫するとともに、子どもの学習評価から日常の授業改善につなげていけるよう努めて参ります。			
対象	評価項目	評価の観点		成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策		
重点目標	1 自主・豊かさ	成功経験の累積	困難にぶつかったとき、仲間とともに解決していける適切な支援を繰り返しながら、乗り越える成功経験を積ませたか。		学級目標具現への意識付けや仲間との課題解決、行事への取組などで成功体験につながる取組が見られました。	○				今後も集団が気持ち一つにして取り組める活動や困難を乗り越えて喜びを分かち合う経験を積める場を設定し、その場に応じた適切な評価を大切にしていきます。	
		挨拶の充実	日常的な声かけや、児童会活動の充実により、挨拶の良さを自覚させながら、実践と評価を繰り返し、積極的に挨拶が飛び交う学校を目指したか。		児童会の取組により校内での挨拶の意識は高まりました。さらに、いつでも、どこでも自然に挨拶ができるよう取り組んでいます。		○			心情面と態度面の両面から子ども自身が挨拶の良さを自覚できるような取組をすべての教育活動の中に位置づけていきます。	
		人権同和教育の日常化	一人一人を大切に、違いを認め合い、共に学びあうよさが実感できる人権同和教育を日常化したか。		互いの違いを認め合い、友の良さを見つけて全体で共有していく中で、相手意識に立って接しようとする子どもが増えたように思います。	○				今後も日常的に安心・安全な学校を目指して、「友達を大切にしよう」という全校共通目標を深める場をつくとともに、教師自身の人権感覚を磨く研修を継続していきます。	
		思いやりの心の育成	児童を肯定的に捉え、温かい言動で接しながら、思いやりの心が全体に広がるように取り組めたか。		友達の良いところに気づく子どもが多いです。子ども同士、互いに意見を伝え合い、折り合いをつけていく場を大切にしています。			○		引き続き、心が通い合う活動や学びを基軸に、自己表出ができ、相手の立場に立ち、相手の目に映る自分を想像できるよう児童支援に当たります。	
		研修を生かした実践	特別支援教育の研修や、児童理解の研修を全職員で積み重ね、研修を生かした実践に取り組めたか。		授業改善や児童理解の研修はもとより、社会人講座や人権教育研修など職員自ら課題を持ち企画した研修を行うことができました。	○				これからも多様な分野における実践的研修を通して、子どもたちに還元できる専門的な知識・技能を高めていきたいと考えています。	
	2 学び	「ふるさと学習」の推進	「ふるさと学習」を通して、探究する楽しさを体験させながら、粘り強く追究する意識を育て、やり遂げた成果に自信を持たせたか。		学校内外で多彩な学習活動を展開することができました。学級間の取組の差も見られず、充実した活動を行うことができました。	○				子どもたちにとって「ふるさと学習」という意識は薄いかもしれませんが、協働的・探究的学びに取り組んでいます。途中での振り返りやまとめの発表を重視し進めていきます。	
		児童会活動、係活動、朝マラソン、靴揃えなどへの取り組み	自分から進んで、児童会活動や係活動、朝マラソンや靴揃えに取り組めるよう工夫して指導することができたか。		コロナ禍で児童会活動が制限される時期にも工夫した取組が見られるなど、子どもたちが自ら進んで児童会活動に参加しています。			○		挨拶や朝マラソンへの意識は高まっていますが、個人差も大きいと感じています。今後、各年度の児童会重点活動は、全委員会での取組を大切にしてい進めていきます。	
		学習習慣の形成	腰骨を立て、目・耳・心で話を聴き合う、学習習慣と姿勢づくりを進めることができたか。		聞く姿勢に力を入れてきました。聞く態度がよい子どもが増えています。個人差も大きいので、日常的な指導を工夫していきます。			○		始業時の気持ちや態度の切り替えの工夫及び環境整備を通して、よりよい学習習慣の形成を日常的に進め、聞くことと伝えることの調和のとれた学級づくりを目指します。	
		学習課題の共有	学習課題を共有し、課題解決に向けて、友の考えを聴き自分の考えが伝わるように話す場面を授業の中に設定したか。		学習問題や学習課題の共有を意識した授業展開を心がけることができました。子どもたちの主体的な取組にもつながりました。			○		学習カードの活用等、今後も自信を持って発言したり、課題追究したりする手立てを講じていきます。また、授業の振り返り場面の工夫と充実を目指します。	
		話し合い活動の充実	ペア学習や小グループによるテーマ追究の話し合い活動を設け、共に学ぶ楽しさに触れさせながら、ともに考えを練り上げ、高める力を育むことを通して、学力向上に努めたか。		子どもたちに課題が据わり、自分事として考え、端末を有効利用して、友と話し合いながら問題解決していく姿が多く見られました。	○				子どもの自主性や自律に向けて、自ら見つけた課題を、友と考えを伝え合いながら追究し、自分の考えを見返し、総合的に選択・判断していく学習場面を今後も大切にしていきます。	

○評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった